

浅間連峰に舞う高山蝶 —ミヤマシロチョウ—

嬭恋村高山蝶を守る会

嬭恋村は蝶の宝庫である。貴重な蝶ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲが飛び交っている。ミヤマシロチョウとミヤマモンキチョウが一つのアザミの花などに留まって、蜜を吸っている姿はここ嬭恋でしか見られない。ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲは、群馬県指定天然記念物である。絶滅危惧種の蝶である。いつまでも浅間連峰で飛ぶ姿が見られるように保護・保全活動をし、多様性のある自然を次世代に継承できるように努めている。

嬭恋村高山蝶守る会の活動内容

- ① 高山蝶の保護活動として、パトロールと監視活動をする。
- ② 生息状況・生態調査を行い、実態把握に努める。
- ③ 食樹メギ等の生息環境の保全・整備活動をする。
- ④ 高山蝶の保護・保全の啓発活動を行う。
- ⑤ 高山蝶の調査・研究と関係団体と連携した活動をする。



1. 浅間連峰の高山蝶生息区域



ミヤマシロチョウは、絶滅のおそれが高い蝶の一つである。環境省のレッドデータブックにおいて「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されている。群馬・長野・山梨の各県では天然記念物に指定されている。かつては本州中部の山地帯に生息していたが、各地

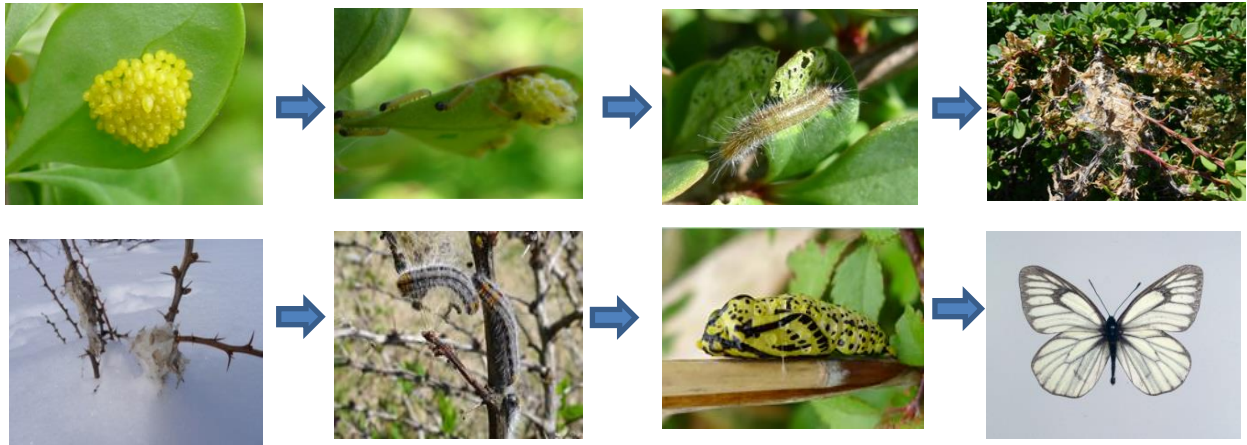
で減少し、現在では一部の地域でしか見ることができない。残された浅間高原でもかつて居た栈敷山周辺では確認できない。生息地が狭くなり個体数も極端に少なくなり、守るための取り組みが急務になっている。

生息の場は、標高 1400m～2000m の山地で、溪流沿い・稜線・牧場などの明るい疎林である。近年になって生息域が急速に失われてきている。牛の放牧が少なくなり、自然環境が大きく変化してきている。牛がいることによって草原と疎林が保たれ蝶(ミヤマシロチョウ)の住みよい環境が維持されてきた。

2. ミヤマシロチョウの形態と生態

食樹であるメギの木の葉裏に雌は、80～150個ほどの卵をまとめて産みつける。卵は、15～20日間ほどでふ化し、幼虫は、口から糸を吐いて葉で巣を作り、集団でメギの葉を食べて成長する。3歳になった幼虫は9月下旬から10月頃になるとメギの葉を食べることを止め、共同の巣の中で冬を越す。翌春、5月になるとメギの葉が茂り始め、幼虫は再び食べ始める。共同で生活している巣は、大きくなり、葉を食べないときにはその巣の中で過ごす。そして終齢の5歳になると、食樹や付近の

植物に移動して蛹になる。20日間ほどで羽化して成虫になる。成虫は、7月から8月上旬まで見ることができる。飛び方はゆるやかで舞うように飛び交い綺麗である。思わず見とれてしまう。雌は各種の花で吸蜜していることが多く、雄は飛翔しながら雌を探す。成虫の寿命は、10日ほどである。



3. 自然環境及び蝶の保全への取り組み

① 生息環境の整備 (現状変更申請を出しての伐採・刈払い作業)



牛の放牧数が減り、カラマツの林に覆われたり、笹が繁茂したりして環境が悪化してきている。草原に樹木がまばらに生える明るい環境がメギの木の成育に適し、吸蜜植物も豊かになる。笹に覆われると、草本植物が減り、吸蜜植物が少なくなってくる。パトロールを通し、生育環境を確認し、適正な環境整備に心がけている。生息地を大切に、環境の維持に取り組んでいる。また、生息域を結ぶ通路(蝶の谷)を確保し、小さく孤立している区域を広げ、繋げることで、良好な環境を保ち、維持していく取り組みもしている。

② 個体数の調査(終齢巣数調査)・啓発のための広報活動

2017年 ミヤマシロチョウの越冬巣の記録
2013年~2017年 蝶の自然観察会

タ	グ	2013 越冬巣 数	2014 越冬巣 数	2015 越冬巣 数	2016 越冬巣 数	2017 越冬巣 数	食糧 サイズ (大・中・小)	備	考
313							中 190-60-130		
314	3	2					中 160-100-80		
315							小 90-50-70		
316	2	1				3	大 250-160-110		
317							小 80-50-50		
318	3	1					中 170-70-90		
327			3	2	1	1	特 290-190-290		
328			2		1		中 160-110-100		
329						1	中 120-85-90		
330							中 110-80-90		
333			1				小 90-60-80		
334							小 120-60-50		
335							小 50-50-80		
336							小 110-70-60		
337							中 140-70-70		
338							中 130-110-100		
339							小 30-20-80		

秋から冬に越冬巣(終齢巣)数を調べることで、生息状況の変化を把握し、保全対策の基礎資料の蓄積に努めている。また、多くの方の理解と協力を得るために観察会などを行ったり、広報パンフレットを配布したりしている。会員は常に募集中である。主にパトロールは6月から9月にしている。皆さま方の参加をお待ちしている。

4. まとめ

今年度はパトロールを17回行ったり、他の団体と交流会をもち共同研修会やパトロールなどを実施したりした。また、広く一般の方に活動を知っていただくための観察会を行い、蝶の舞う姿を観る機会をつくった。今後も保全活動に取り組み、いつまでも浅間連峰で高山蝶の飛ぶ姿が見られるように皆さんと共に活動をしていきたい。